

RJJ19B0837-0100

ルネサスシングルチップ8ビットマイクロコンピュータ  
M38747MCB-XXXGP  
マスク化確認書

マスクROM番号 

受 付 欄	年 月 日
	課長印 担当者印

(注) 印をすべて記入ください。

貴社 記入欄	貴社名	TEL	発 行 印	責任者印	担当者印
	発行日	年 月 日			

## 1. ご確認表

発注される品種名および提出いただくEPROM、またはフロッピーディスクを指定してください。  
EPROMで発注される場合は1パターン当たりEPROMが3セット必要です。フロッピーディスクで発注される場合1パターン当たりフロッピーディスクが1枚必要になります。

## EPROMの場合

当社では提出いただいた3セットのEPROMの内、少なくとも2セットの内容が同一であれば、この内容のデータによってマスク作成を行います。したがって、このデータと生産される製品に焼きつけられるROMデータが異なる場合のみ当社はその責を負います。提出いただくEPROMデータの内容については十分に確認をお願いします。

EPROMの全領域のチェックサムコード

(16進表示)

データリンク層通信制御回路用サブROM番号

## EPROMの種類

2 7 5 1 2		2 7 1 0 1	
アドレス		アドレス	
0000 <sub>16</sub>	製品名 M38747MCB- のASCIIコードを 入れる領域	0000 <sub>16</sub>	製品名 M38747MCB- のASCIIコードを 入れる領域
000F <sub>16</sub>		000F <sub>16</sub>	
0010 <sub>16</sub>		0010 <sub>16</sub>	
0017 <sub>16</sub>	サブROM番号 のASCIIコードを 入れる領域	0017 <sub>16</sub>	サブROM番号 のASCIIコードを 入れる領域
0018 <sub>16</sub>		0018 <sub>16</sub>	
407F <sub>16</sub>	データ ROM(48K-130)バイト	407F <sub>16</sub>	データ ROM(48K-130)バイト
4080 <sub>16</sub>		4080 <sub>16</sub>	
FFFD <sub>16</sub>	斜線部分	FFFD <sub>16</sub>	斜線部分
FFFE <sub>16</sub>		FFFE <sub>16</sub>	
FFFF <sub>16</sub>		FFFF <sub>16</sub>	
		1FFF <sub>16</sub>	

(ご注意)

フロッピーディスクで提出される場合は  
左記の製品形名領域にはデータを入れない  
てください。

マイクロコンピュータのアドレス空間上、内部ROM領域として4080<sub>16</sub> ~ FFFD<sub>16</sub>番地以外は使用することができません。なお、本製品のリセットベクトルはFFFC<sub>16</sub>、FFFD<sub>16</sub>番地に格納します。

- 斜線部分には“FF<sub>16</sub>”を入れてください。
- 0000<sub>16</sub> ~ 000F<sub>16</sub>番地は製品形名のデータ格納領域です。  
‘M38747MCB-’のASCIIコードを次頁に示しますので、0000<sub>16</sub> ~ 000F<sub>16</sub>番地には必ず次頁のデータを書き込んでください。番地、データとも16進表記です。
- EPROMの0010<sub>16</sub> ~ 0017<sub>16</sub>番地はデータリンク層通信制御回路用サブROM番号のASCIIコード格納領域です。提出頂いたROMを開発した時に使用したデータリンク層通信制御回路用サブROM番号のASCIIコードをEPROMの0010<sub>16</sub> ~ 0017<sub>16</sub>番地に必ず書き込んで下さい。ASCIIコードを次頁に示しますので、書き込み時にご参照下さい。
- EPROMの0018<sub>16</sub> ~ 001F<sub>16</sub>番地には必ず“FF<sub>16</sub>”を入れてください。

RJJ19B0837-0100

マスクROM番号

## ルネサスシングルチップ8ビットマイクロコンピュータ

M38747MCB-XXXGP

## マスク化確認書

アドレス	アドレス	ASCIIコード
0000 <sub>16</sub>	' M ' = 4D <sub>16</sub>	' 0 ' = 30 <sub>16</sub> ' 8 ' = 38 <sub>16</sub> ' G ' = 47 <sub>16</sub> ' R ' = 52 <sub>16</sub> ' Z ' = 5A <sub>16</sub>
0001 <sub>16</sub>	' 3 ' = 33 <sub>16</sub>	' 1 ' = 31 <sub>16</sub> ' 9 ' = 39 <sub>16</sub> ' H ' = 48 <sub>16</sub> ' S ' = 53 <sub>16</sub>
0002 <sub>16</sub>	' 8 ' = 38 <sub>16</sub>	' 2 ' = 32 <sub>16</sub> ' A ' = 41 <sub>16</sub> ' K ' = 4B <sub>16</sub> ' T ' = 54 <sub>16</sub>
0003 <sub>16</sub>	' 7 ' = 37 <sub>16</sub>	' 3 ' = 33 <sub>16</sub> ' B ' = 42 <sub>16</sub> ' L ' = 4C <sub>16</sub> ' U ' = 55 <sub>16</sub>
0004 <sub>16</sub>	' 4 ' = 34 <sub>16</sub>	' 4 ' = 34 <sub>16</sub> ' C ' = 43 <sub>16</sub> ' M ' = 4D <sub>16</sub> ' V ' = 56 <sub>16</sub>
0005 <sub>16</sub>	' 7 ' = 37 <sub>16</sub>	' 5 ' = 35 <sub>16</sub> ' D ' = 44 <sub>16</sub> ' N ' = 4E <sub>16</sub> ' W ' = 57 <sub>16</sub>
0006 <sub>16</sub>	' M ' = 4D <sub>16</sub>	' 6 ' = 36 <sub>16</sub> ' E ' = 45 <sub>16</sub> ' P ' = 50 <sub>16</sub> ' X ' = 58 <sub>16</sub>
0007 <sub>16</sub>	' C ' = 43 <sub>16</sub>	' 7 ' = 37 <sub>16</sub> ' F ' = 46 <sub>16</sub> ' Q ' = 51 <sub>16</sub> ' Y ' = 59 <sub>16</sub>
	0008 <sub>16</sub>	' B ' = 42 <sub>16</sub>
	0009 <sub>16</sub>	' - ' = 2D <sub>16</sub>
	000A <sub>16</sub>	FF <sub>16</sub>
	000B <sub>16</sub>	FF <sub>16</sub>
	000C <sub>16</sub>	FF <sub>16</sub>
	000D <sub>16</sub>	FF <sub>16</sub>
	000E <sub>16</sub>	FF <sub>16</sub>
	000F <sub>16</sub>	FF <sub>16</sub>

アセンブラソースプログラムの先頭に、書き込むEPROMの種類別に下表に示す疑似命令を記述することにより、EPROMの0000<sub>16</sub>～0009<sub>16</sub>番地に形名のASCIIコードを書き込むことができますのでご利用ください。

また、サブROM番号についても同様の記述を行うことにより、0010<sub>16</sub>～0017<sub>16</sub>番地にサブROM番号のASCIIコードが書き込まれます。

EPROMの種類	27512	27101
ソースプログラムへの記述	*= \$0000 .BYTE ' M38747MCB- '	*= \$0000 .BYTE ' M38747MCB- '

(注) EPROMに書き込まれた形名とマスク化確認書の形名が一致しない場合およびリリースされていないサブROM番号を指定した場合には、ROM処理ができませんので正確にお願いします。

RJJ19B0837-0100

マスクROM番号

## ルネサスシングルチップ8ビットマイクロコンピュータ

M38747MCB-XXXGP

## マスク化確認書

## フロッピーディスクの場合

当社では提出いただいたフロッピーディスクのファイルの内、マスクファイル生成ユーティリティで生成されたマスクファイルを処理してマスク化を行います。したがって、このマスクファイルと生成される製品に焼きつけられるROMデータが異なる場合のみ当社はその責を負います。提出いただくマスクファイルの内容については十分に確認をお願いします。

## ・マスクファイル生成ユーティリティ使用時の注意

当品種ではデータリンク層通信制御回路用サブROM番号を、オプション情報として入力していただきます。以下のとおり、サブROM番号8桁をASCIIコードにて入力して下さい。入力していただいたサブROM番号と、マスク化確認書に記入していただいたサブROM番号が一致しない場合および、リリースされていないサブROM番号を指定した場合にはROM処理ができませんので、正確をお願いします。

10 <sub>16</sub> 番地	サブROM番号1桁目	ASCIIコード
11 <sub>16</sub> 番地	サブROM番号2桁目	' 0 ' = 30 <sub>16</sub>
12 <sub>16</sub> 番地	サブROM番号3桁目	' 1 ' = 31 <sub>16</sub>
13 <sub>16</sub> 番地	サブROM番号4桁目	' 2 ' = 32 <sub>16</sub>
14 <sub>16</sub> 番地	サブROM番号5桁目	' 3 ' = 33 <sub>16</sub>
15 <sub>16</sub> 番地	サブROM番号6桁目	' 4 ' = 34 <sub>16</sub>
16 <sub>16</sub> 番地	サブROM番号7桁目	' 5 ' = 35 <sub>16</sub>
17 <sub>16</sub> 番地	サブROM番号8桁目	' 6 ' = 36 <sub>16</sub>
		' 7 ' = 37 <sub>16</sub>
		' 8 ' = 38 <sub>16</sub>
		' 9 ' = 39 <sub>16</sub>

フロッピーディスクは3.5"2HD/IBMformatで用意してください。また、フロッピーディスクに収めるマスクファイルは一つだけにしてください。

ファイルコード

(16進表示)

マスクファイル名

.MSK (英数字8桁)

データリンク層通信制御回路用  
サブROM番号

(英数字8桁)

(ご注意) フロッピーディスクで提出される場合は、製品形名を入れないでください。

下記のROMデータ領域以外には、データを入れないでください。

ROMデータ領域・・・4080<sub>16</sub> ~ FFFD<sub>16</sub>番地

RJJ19B0837-0100

マスクROM番号

## ルネサスシングルチップ8ビットマイクロコンピュータ

M38747MCB-XXXGP

## マスク化確認書

## 2. マーク指定 (フロッピーディスク、EPROM共通)

マーク指定はパッケージの形状により異なります。別紙の80P6Sマーク指定書にご記入の上、本マスク化確認書に添付して提出ください。

## 3. ご使用条件について (フロッピーディスク、EPROM共通)

当社製品検査の参考とさせていただきますので、発注される製品の使用条件について質問します。

(1)  $X_{IN}$ - $X_{OUT}$ 発振回路は次のどの条件で使用されますか。

セラミック共振子	水晶発振子
外部クロック入力	その他 ( )

また、その周波数は何MHzですか。

$f(X_{IN}) =$   MHz

(2)  $X_{CIN}$ - $X_{COUT}$ 発振回路は次のどの条件で使用されますか。

セラミック共振子	水晶発振子
外部クロック入力	その他 ( )
使用しない (P40, P41として使用)	

また、その周波数は何Hzですか。

$f(X_{CIN}) =$   Hz

## (3) 内部クロック分周比はどれを使用されますか。(複数回答可)

= $X_{IN}$ (倍速モード)	= $X_{IN}/2$ (高速モード)
= $X_{IN}/8$ (中速モード)	= $X_{CIN}/2$ (低速モード)

## (4) データリンク層通信制御回路を使用されますか。

はい  
いいえ

## 4. 特記事項